

第13回多摩市自治推進委員会 要点記録

平成26年10月27日(月) 18:30~20:10

多摩市役所3階 特別会議室

出席者：安藤委員長、川添委員、小嶋委員、横山委員、田中委員

事務局：企画政策部長、企画課長、企画課主査、企画課主事

審議：今後の検討テーマについて

□開会

事務局 配付資料について事務局から説明を行った。

委員長 今回の資料は、前回議論した構成を変更しながら、ストーリー的になってきた。

まちものがたりの事例は3例だが、今後追加していても良いと思う。事例のヒアリングについて、以前から確認しているとおり、団体なり個人なりに自治推進委員会に来ていただくか実際に伺う必要があると思う。

委員 表紙は、今回作成したものが使えるかもしれない。人が繋がるイメージを取り入れ、階段状になるといい。

「まちにかかわるスゴ！ロク」は出会いがありそうで面白い。

委員長 「スゴロク」という言葉でいいか。松本先生はプロセスという言葉を使ったが、スゴロクであるとゲーム的に飛ばすコマやアガリがあったりする。

全体の構成としては、はじめからすべて読む必要があるわけではないので、市民にとって使い易いものとなっていると思う。

委員 2ページの多摩市の地図について、東西の長さが表示されているので、南北の長さも表示されているといい。乞田川は市内が源流域であるが、大栗川や多摩川の源流が異なるので工夫があるといい。

「多摩の良い所」では、4つのカテゴリーを入れてもらったが、どこまで取り入れるかは今後検討が必要。現在、環境部でみどりのルネッサンスを行っている。瓜生緑地、馬引沢南と永山第二で行っており、今年度中にその他に2箇所行うことを検討している。ワークショップで緑(みどり)のカルテづくりと管理シートづくりをする。緑(みどり)のいいところと改善したほうがいいところ等が議論され、現在瓜生緑地は非常に改善されている。このような例が高齢者や子育て・教育等でもすでに動いている部分も含めて良い所が掲載されるといいと思う。

多摩市の課題の部分では、「千葉レポ」が例として上げられているが、環境部でも同様の内容に取り組み始めているので、多摩市内でのことも注目して取り入れて欲しい。

Q&Aの部分で、「行政だけでは困難です。～まちにかかわることが必要です。」という部分では、何に、どのようににかかわるのが、もう少し明確であることが必要ではないか。

委員長 行政が構築するインフラばかりのまちではなく、自分自身や隣近所で花を植えるとまちづくりとなる。まちへの疑問等をQ&Aに上げてみてはどうか。

委員 スゴロクは行きつ戻りつということを感じさせるので、プロセスよりもいいのではないか。

また、「はぐくむ」の部分で「折り合いをつける」部分の要素が入ると良い。

委員長 地図については、実際の写真などを使わず、イラストを盛り込むが川等はやや正確に書くという点を確認した。また、「多摩市の良い所」ではカテゴリーに分かれているが、それぞれに繋がりがあるといいかもしれない。

Q&A では、実際に活動している人、市民の人にヒアリングができると良い。自治への考えや、まちづくりへのかかわり等を聞いて考えをまとめるといいのかもしれない。

委員 多摩市の交通の便が良い事をもう少し書いても良いのではないかと。多摩市に住みたいと思える要素として入れてはどうか。

委員長 産業、農業として自慢できるものはあるか。

例えば、隣の稲城市等では梨が特産である。

事務局 特産物と言えるものはあまりない。

委員長 地方の都市に行くと、多くの場合産業が枯れてしまっている。若者が入りまちおこしをしている例がある。染色の技術などは産業としては枯れていても、若者が入ってくることで新しい文化になる。今あるもの、これから伸びていくようなものに市民が関わり、共に伸びていくと市民自治となっていくのではないかと。

委員 企業は不況になると見切る可能性がある。若者が地場産業を育て、利益の分配ができるといい。

事務局 農業等で2代目、3代目の後継者不足というのは問題となっているが、その対応まではできていない。

委員長 東日本大震災後の東北で、農業の現場では後継者がいなくなり休耕地が多い。そこに都心の引きこもりのような若者が入りこんで、現地の人が色々と指導をしたりする。さらにそこに東京の知人も入りこむとなると自治となる。休耕地など、使っていない場所をどのように活用するかであると思う。後継者不足や過疎になっている部分に可能性が出てくると思う。そういった芽があるのかどうか。

委員 関わりづくりという意味では、市内に5つの大学があることもあり、呼びかけはしているものの実現という意味では難しい。大学では、キーパーソンとなる方がおり、市民との連携に関わっている。先日のハロウィンも協力して行っている。多摩市内には中心になるような産業はないのかもしれないが、人と言う財産はあるのではないだろうか。5つの大学があり、長い間人が関わることはできるのは魅力である。

多摩センターのハロウィンは有名であり、関東中から来ている。新しい祭りではあるが、気軽に仮装などをして参加できる点がよく、地域のものを買ってもらえるという意味では産業に貢献している。

「多摩市の良い所」では、切り口の問題ではあるが、まち（市）の基盤として「交通・公園・産業」、くらしの基盤として「子育て・教育・高齢者・コミュニティ」となるように、切り口の明確さがもう少しあると、市民がわかりやすいのではないかと。

委員長 「多摩市の良い所」では、現在のところ、これまで議論してきたテーマ（子育て・教育、高齢者、コミュニティなど）を中心に記載しているが、今後、事例検討を進めていく中で、良い点は増えてくると思われる。その時点で、掲載する内容を決定する必要がある。

また、委員からご指摘いただいたように、少なくとも市内に5つの大学がある点は、強み

として入れた方が良く。例えば、地域と大学が連携するという意味で「地学協働」という多摩市独自の新しい言葉を作っても良いのではないか。

委員 「ハロウィン in 多摩センター」には、近隣（八王子市、神奈川県麻生区など）からも多くの人が集まってくる。回を重ねるごとに、イベント規模が大きくなってきている。

委員 仮装していることが条件で景品がもらえたり、パレードに参加できたりする仕掛けがあることも、イベントが盛り上がっている要因かと思う。

委員長 ハロウィンは、一つのお祭りかもしれないが、多くの人が集まることで、活気が生まれ、産業が活性化していく。こうしたお祭りの多くは、小さい所から始まって、自然に規模が大きくなる。また、子どもの楽しみから広がるなど、そういった部分があると報告書に深みが出る。ハロウィンも、一つの自治の事例と捉えることもできるかもしれない。こうしたまちを自慢できる部分が、「多摩市の良い所」に掲載できると良い。ぜひ、次回までに事務局に調べていただきたい。

また、地域の大学、研究施設等と結びつくことによって、何か新しいことが生まれる可能性がある。そのきっかけの芽を捉えることも重要である。

例えば、福岡県大牟田市では、医療・介護系の病院・研究施設と連携して、市民参画により「認知症高齢者がいつでも徘徊できるまち」を目指している。こうした取り組みは、行政だけでは実現できない。専門機関が関わることで、市民参画が推進していく。

また、東京都板橋区のUR高島平団地では、大学と提携して、団地の空き室を学生寮として活用している。学生に家賃補助をする代わりに、高齢者の見守り活動など、地域貢献することを住む条件としている。多摩市にも、大学等の知恵や知的財産を活かすための、こうした取り組みがあると良い。

委員 確かに、自治会などにも、うまく若い人が入ってくれたら活気づくと思う。若い人が住んでくれないと、活気が徐々に失われていく。

委員 立川市の大山団地は、リニューアルして街がきれいになった。まちがきれいになると、若い人が集まってくる。

委員長 立地、リニューアルなどにより、若い人が集まってくる。また、若い人が集まってくると、店が増え、活気が増していく。このように様々なことが循環、連鎖していく。

本報告書では、このような将来的に芽がある部分を掲載できると良い。多摩市に良い事例がなければ、他市の事例を参考にしても良い。そうした事例の自治の基盤と言える部分を報告書に掲載できると良い。

委員 資料1-2のイメージは見やすく、わかりやすいと思った。煮詰めていけば、良い報告書になるのではないかと感じた。親しみやすくするために、キャラクターを活用しているのも良いと思う。

委員長 「多摩市の良い所」、「今、多摩市の抱える課題」、「Q&A」の部分が、場合によっては重なる部分があるなど連鎖するようにして、更に、後ろの「おとくな情報」につながっていくような資料になると良い。

委員 平成26年8月の「行政評価市民フォーラム」で、観光の視点から、「さくら」、「ロケ地」など多摩市の良い点がたくさん挙がっていた。こうした意見も活かせれば良い。

委員長 確かに、ロケ地があると、観光のために人が集まるだけでなく、連鎖的に若い人が集ま

ってくる。

委員 「今、多摩市の抱える課題」で、もう少し多摩市を上手く伝えるようなPRが必要ではないかと感じる。言い換えれば、シティセールスの方法を工夫する必要があるのではないか。

例えば、「多摩市の良い所」では、「市民一人あたりの市立公園面積が多摩地域26市トップ」と記載があるが、先日、若い保護者の方から、「多摩市には（安心して遊ばせられる）公園がない」という話を聞いた。デパートの屋上のような、きれいに囲まれていて、ボール遊びができるような公園がないという意味である。そうした点を踏まえて、「多摩市のあと一歩をプラスに変えよう」と呼びかけて欲しい。

委員 近所に芝生の山と、一本のケヤキがある小さな公園がある。その公園には、不思議と多くの人が集まってくる。小さい公園でも山が一個あるだけでかなり違うと感じる。広い公園では、管理しづらく、遊びづらい部分があるかもしれない。

また、瓜生緑地は、以前は薄暗く遊べる感じではなかったが、現在は手入れがなされて気軽に立ち寄れる場所になった。普段から環境整備することは大切である。

委員長 確かに、都立公園など広い公園は家族で行くイメージがあり、子ども同士で遊ぶことは難しい。公園が身近であるかどうかは、面積の問題ではない

「多摩市の良い所」は、裏返すと「今、多摩市の抱える課題」になる。その課題に対して、市民がどう関わるのかという部分が明確になると見やすくなる。更に、Q&Aについては、事例検討をしていく中で、多くの質疑応答を作っていければ良いと思う。

また、「まちのものがたり」について、インタビューは、マンガで描くと、中高生にも興味を引くため、非常に良いと思っている。取り上げる事例については、これまでの検討事例などから、今後決定していきたい。

以上、事務局で作成した「報告書の構成（案）」及び「報告書の作成イメージ（案）」について、議論していただいた。今後、細かい部分の修正はあるかと思うが、大枠として、報告書の構成等はこれでよろしいか。

（委員全員意義なし）

それでは、報告書の構成等については、この方向性で決定する。

本日の議論で、報告書のまとめに向けたイメージが具体化されてきた。本日の議論を踏まえて、事務局に報告書を形にする作業をしていただきたい。今後、報告書の内容を踏まえて、事例検討を行っていきたい。

次回は、事務局の作業期間を設けるため、1月23日（金）に開催することとする。その間、事務局と委員長・副委員長で、報告書の内容について協議するものとする。

これで第13回委員会を閉会する。

□閉会